



6次産業化対策技術

NPO 環境ハーヴェストファーム

この提案は私共が10年ほど前から追求してきたパソコンや携帯電話のボディを形成しているプラスチックを永久リサイクルするという技術から生まれた、水蒸気色差分解技術を植物に応用したもので、農山村にしかない大切な資産を価値ある商品に変えるという新しい試みで、森林組合、農業協同組合、各自治体、民間企業と連携して1次産業から3次産業までが協力の下、地域の雇用も生み出し、今までとは違った観点から自然環境と人の共生の中での発展を目指す新しい事業の提案です。

【目的】

大きな資産である山林の間伐材や、農作物だけでなく、漁業にも役立つ高付加価値材を作り出し、CO₂の削減(焼却の1/20)と共に自然を復活させ、農山魚村に雇用の創出と経済効果を確実にもたらすことを目的としています。

【概要】

間伐材を加工して切粉を作り、これを色差分解して農業で使用できるフルボ酸を生成する。これに水酸化鉄を反応させてフルボ酸鉄を作ります。

一方、分解済針葉樹及び竹の切粉を基材としたきのこ培地を作り、きのこを生産、収穫後、廃培地を再び色差分解して、フルボ酸、フミン物質として農地及び海の改質材を製造します。

これは画期的な有機活性材*¹⁾で、今まで人工では作られていないものです。(特許技術)

*1) 有機活性材(フミン酸鉄) : 森林に降った雨は、腐葉土の養分を溶かし、豊富な栄養分と共に有機酸(フミン酸)を含んで川に流れこみ、両岸や川床の水酸化鉄と結びついて海に注ぎ、豊かな海を作ります。これによって海の砂漠化(磯やけ)も復活すると言われています。